

# 川崎病について

## 【川崎病とは？】

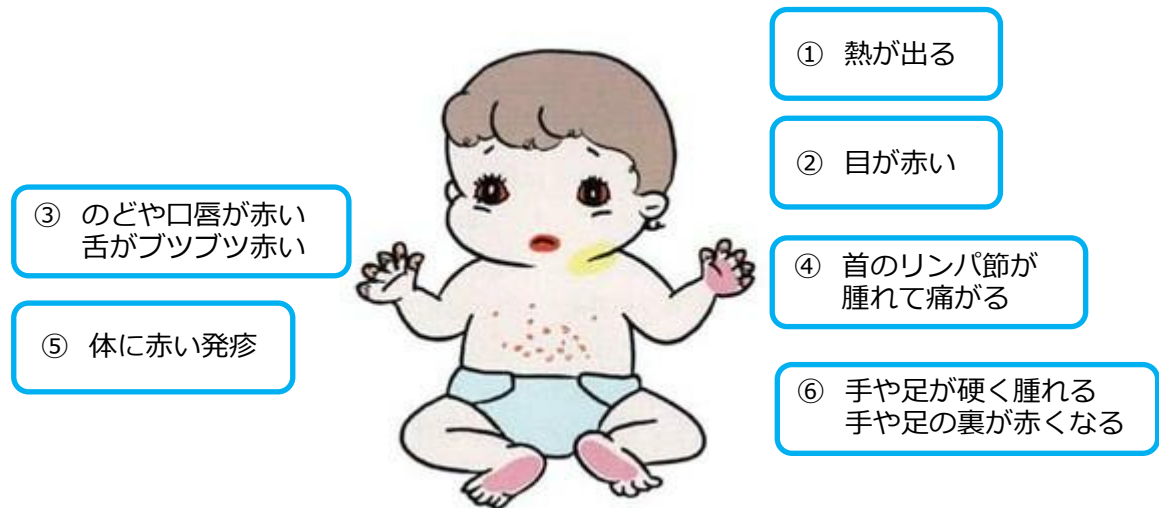
- ・ **発熱**と**発疹**が特徴の、全身の血管に炎症を起こす病気です。
- ・ 4歳以下の子供が多くかかりますが、学童がかかる場合もあります。

## 【原因は？】

- ・ 感染症が原因と考えられていますが、まだ**病原体は不明**です。
- ・ 家族に川崎病にかかった人がいたり、人種差（日本人に多い）があること、なりやすい遺伝子の型があることなどがわかっています。
- ・ 何らかの川崎病になりやすい素因（体質）があつて、感染症をきっかけに発症すると考えられていますが、詳細は分かっていません。

## 【よくみられる症状は？】

- ・ おもな症状は6つにまとめられます。BCG接種後半年以内ではBCG部位が赤くなって膿やかさぶたができます。



- ・ 最も重大なものが**心障害**です。心臓の筋肉を栄養する血管が広がってこぶのようになる冠動脈瘤などがあります。
- ・ 冠動脈瘤が残ると、血栓（血の塊）ができてしまいます。また、ふくらんだ血管は治るときに逆に狭くなり、冠動脈を塞いでしまつて心筋梗塞を起こす可能性があります。

## 【治療は？】

- ・ 血液検査と心エコー検査をして、入院による治療が必要です。
- ・ **アスピリン**などの血液が固まりにくくなる抗血小板薬を内服します。
- ・ **ヒト免疫グロブリン製剤**を1日かけて点滴静注します。熱が出てから9日以内にこの治療が必要です。
- ・ 退院後も最低5年間は定期受診と検査が必要です。

**川崎病は初期症状はかぜと区別が付きません。  
疑わしい際には病院にご相談ください。**